

Do CL Column

Ⅱ 1万人に1人の確率の疾病とCL

—CLのエッセンスのお陰で—

小野 明男 a.ono@mirror.ocn.ne.jp



私は、20年来の先輩のアドバイスのお蔭でCLと出会い、建設的な生き方を日常生活に取り入れて過ごしております。たとえばカッコよく聞こえると思いますが、そんなにスマートなものではなく、ある時は感情的になったり、またある時は自分中心になって、後になりCLの教えを思い出し反省する…そんな生活を繰り返していました。

2007年にインストラクターの認定を受け、1年後の2008年11月、一年に一度受ける健康診断でまさかの事実を知ることになりました。詳しくは割愛しますが先天的な遺伝子の変異で1万人に1人~2人がかかるまれな病気との宣告を受けました。あまりのショックでその時のことはよく覚えていないのですが、そこから現在に繋がる自分と病気との関わり方、そのヒントになっているCLのエッセンスを振り返ってみました。

■病気の発覚（2008年12月）～

毎年、受診（35歳から）していた人間ドックで先天的な病気が発覚したのです。1万人に1人~2人と言われ頭がまっ白になるほど驚きました。「マジか！」「何で自分が！」との感情が湧きましたが、しばらくすると「事実を受け入れる」「なすべきことをなす」などのCLのエッセンスを思い出し、そのヒントのお陰で次の行動に移りやすくなりました。

■病気との付き合い～手術決定まで（2009年1月～2011年11月まで）

手術までの2年半の間に主治医からこの病気に関していろいろと教わりました。医師との話の中で「手術」や「死」に関することが何度も出てきました。他人ごとではなく、自分が「死ぬかもしれない」という現実と直面しているのだと実感しました。そこから自分の病気に対して具体的になってきました。病気に対する知識が深まって行くと、死亡率や手術の場合の成功率など、「死」がリアルなものになり「死ぬかも？」という現実が目の前にくると、始めてそこで死の反対にある「生きる」ことが浮かび、「生きる」ってなんだろうと実際に考え始めました。そこから具体的に生きる「目的」を考えるようになりました。このような現実と自分が置かれたときに、CLの教えがなにかわかった瞬間でした。

手術が決まり母親と姉にも事実を伝えました。自分はそれまでの主治医との話し合いの中で現状の把握とその事実と向き合うことを決めていましたが、いきなり家族は病気や手術を知らされ、聞いた事実だけでなく、心配や不安や想像などが渦巻いたに違はなく、事実以外の感情ものしかかるので、本人よりも悩みが深く、大変なように見えました。そんな状況に置いてしまったことが申し訳なかったです。

自分自身はこの2年間、これは不必要な心配だとか、事実は何とかCLのエッセンスがとても役立ちました。

■入院～手術まで（2011年11月）

手術のために入院すると多くのスタッフや家族、周りの人たちに支えられて、生かされている事実を「日常生活」よりはっきりと認識する機会になり、そのことをもっとよく考える時間になりました。

その病院では循環器科と心臓外科があり、ハートセンターとして心臓病の患者用ベッドが80床以上あり、常に満床の患者さんでいっぱいです。カテーテルの処置を受ける2~3日で退院していく方や心臓の提供者を待つ方など、様々な病状の方がいる中で「あの人の方が俺より軽い」とか「重い」とか他人と比べることの無意味さを知りました。自分より健康な人も自分より不健康な人も沢山います。だったら他人と比べても意味がありません。ならば現在の自分に目を向けベストを尽くすしかないと強く思いました。自分の病状、


自分ときちんと向き合って「今の自分で生きる」ことが大事と実感し、自分の身の上に照らしたCLの教えの理解が深まり、より具体的に考えました。

■退院～現在（2011年12月～現在）（2012年3月 2012年10月にも入院有り）

手術は20時間かかり、心臓が元のように動くようにしていただきました。退院後～現在も主治医やスタッフの皆様に、血液の状態を主にサポートしていただいています。また血液関係の数種類の薬を常用していますが、その薬を作ってくれた方たちがいます。先日エコー検査で自分の「人工弁」が動いている様子を画面で見せてもらいましたが、その人工弁を開発してくれた方たちがいます。かつては人工弁の不良で亡くなる人がいて信頼性が低くかったのですが、現在では技術革新のおかげで耐用年数100年だそうです。自分の年齢を考えれば100年もてば十分で、そういったまとめて言ってしまうと医学の進歩や他人の支えのお陰で日々を過ごし、生かさせていただいている事実をみつめています。

今は仕事に戻りスタッフの支えで働いています。突然、血液に細菌が入ったことで、急遽入院するときも、スタッフの支援で仕事が継続できます。

病気自体はマイナスな出来事だったかも知れませんが、CLのエッセンスを活かす経験を事実として体験する、数少ない貴重な機会を与えてもらい良かったと考えています。（神奈川県川崎市CLインストラクター）

 [目次へ戻る](#)